

体験グローバル 「福山市役所」の講演を行いました

2017年5月16日7時間目に4年生を対象に、福山市役所の企画政策課より高橋遼平さんと杉原由識さんを講師として本校にお招きし、講演をしていただきました。

講演は、「第五次福山市総合計画 人が輝き 夢をはぐくむ未来創造都市 ～ばらのまち 福山～」をテーマに話をさせていただきました。話の中では、歴史や伝統、モノづくりなど様々な分野において、日本を代表するもの、誇れるものが福山には数多くあることを紹介していただく一方で、福山市も少子化・高齢化が他人事ではないこと、そこから様々な課題が現状として表れてきていることを具体的なデータを示して説明していただきました。そういった福山の良さと課題に対して「行政として何ができるか」を考え、今取り組んでいること、そしてよりよい未来の福山に向けてこれから取り組もうとしていることを説明していただきました。



講演から、福山市にはよさや強みがたくさんあること、それらを市役所だけでなく企業や市民が一体となって活用していくことが重要であったり、福山市という単位だけでなく、備後圏域といったより広域的な枠組みで地域を考えていくことが重要であったりすることを生徒は学ぶことができました。

講演後には、質疑応答の時間に質問できなかった生徒数名が控室で講師を囲んで質問に答えていただくだけでなく、高校生らしい発想・アイデアを講師に提案し意見を交換する場面もありました。

講演後の生徒のアンケートをまとめると以下のようになりました。

質問項目

1. 今日の講演は興味・関心をもって聞くことができましたか。
2. 今日の講演は新しい考え方や視点が学べるものでしたか。



自由記述 今回の講演から学んだこと、考えたことを具体的に記述してください。

○福山市の将来像を立てて、理想をどんどん追求していく政治の大変さと大切さがよく分かった。政治に関する取り組みが多く、観光客を増やしていく取り組みもあつたりして、いいと思った。市民にアンケートを行い、問題点をはっきりさせた上で改善していくところなど、政治上の様々なことを悩みつつ取り組んでいてすごいと思った。がんばってもらいたいです。

○去年の総合での学習の延長線上にある講演だった。福山市のことについてたくさん調べていたので、話の内容が分かりやすく、逆に知らないこともあり、興味を持って聞くことができた。全国だけでなく、福山市にも人口減少の波がきており、その中で福山市がすべきことが5つのまちづくりの視点で計画になっていた。福山市民として行政に関心を持って一体となって具体的な施策を実行できるようにしていこうと意識が高まった。



○私は福山市民ですが、普段気付かない福山の魅力が分かりました。中心市街地の流動客数が2003～14の間に42%も減っているというのには驚きました。(私はよく駅前を歩きますが、少し寂しいなという感じはします。)

福山の町をより良くするためにはまず、市民である私たちが、積極的に福山の良いところを見つめていかなければならないと思います。

- 高い理想を持って福山というまちを魅力的なまちにしようとしていることが良いと思った。具体的に様々な計画の例を聞きましたが、SNSを使って、情報発信をしているという点が、現代の特徴をつかんでいて良いと思った。少子化・高齢化という問題の、今からでも間に合う少子化に目を向け、様々な計画を立てていると分かった。自分たちも、中3の時に、地域活性化について考えたので、とても興味深かった。
- 普段は当たり前前に生活していて気づきませんが、確かに福山市には待機児童がいなかったり、鞆の浦があったり、エフピコがあるなど、良い所が多々あると気づきました。一方で、特に外国人の方はほとんど見かけず、海外からの観光客なども少ないだろうし、グローバル化は進んでいないのかもしれないと思いました。地方自治体の役割を知って、将来自分が社会でどう動くのか考える材料にしていきたいと思いました。
- 私は福山市に住んでいながら、全然福山市のことをよく知っていないなと感じた。福山市の人口データや、福山のオンリーワン、ナンバーワンについても、初めて聞くようなことばかりだったので、もっと地域について調べてみようと思う。また、観光客が少ないというのも意外だった。今日の講演で聞いた「福山市総合計画」や「ふくやま未来づくりビジョン」などの取り組みも、よりよい福山が期待できるので楽しみ。私達自身も福山をよりよくしていこうということについてよく考え、私たちが発信できる機会も生かしていきたい。



○行政というものは、とてもたくさんの幅広い分野の課題を同時に解決・改善しなければならないことが改めてよく分かりました。また、市政は長い目で見て、将来のことを深く考えて政策を考えなければならないこと、人が相手なので、何が起こるか分からないことが大変だなあと感じました。課題となる分野も増え、時代とともに変化もしているので、行政というのは本当に難しいなあと感じました。

- 僕は倉敷市民なので福山市民の人ほど福山のことを知らないが、福山の魅力がとても伝わった。倉敷でも岡山県南部の市とのつながりもあるので、少し市政について分かるところもあった。「ふくやま未来づくり100人委員会」という取り組みで、市民から意見を直接聞くことができ、市民の参政という面でも、行政が市民の声を聞き、それを実現させる面でも、よい機会だと思う。少子化・高齢化が進む日本において、とても大切なこと(介護など)について学ぶことができた。
- 行政の方たちは、赤ちゃんから高齢者まですべての人に充実したサービスを提供するため、たくさんの苦勞をされているということを知りました。進学で若い人たちが出て行ったり、出生率が低かったりすることで、人口が減っていることなど、すべての市民にとってより良いまちとはどのような市か、どのようにしてつくっていくのか考えていっしやる姿勢にとっても感動しました。
- 福山市には、全国に誇れる観光地や会社があるので、それをアピールしていくことが大切なのだろうと思った。私は生まれも育ちも福山市だけど、福山市のすごいところをすべて知っているわけではないので、まずは私たち市民がそういったところを知って、市に愛着を持つことで活性化していけるのではないかと感じた。市役所の方が発信してくださるものを素直に受け取って、市の発展の役に立ちたい。
- 行政という新たな視点から街について見直すことができた。企業は企業で生き残るために様々な工夫を凝らしているが、行政もできるだけ良い暮らし、仕事を提供するために様々な取り組みを行っていることが具体的な例を元によく理解することができた。また、市内向きに企業・ひとのサポートを行っているだけでなく、市外へ福山の魅力を発信することに関しても意欲的に進めているのだと理解できた。

